

富士電機ホールディングス(株)相談役  
加藤丈夫

加藤でございます。私は現在、日本経団連の労使関係委員会の委員長を勤めておりますが、経済人の集まりである日本経団連の経済同友会も、この若年雇用と能力開発の問題については、重大な関心を持っておりまして、議論を深めていく、というところです。

#### 経営者が取り組むべき課題

今日はその中から、当面経営者が取り組むべき課題について、四点コメントさせていただきたいと思います。

第一の問題は、先ほど太田統括官からお話がありましたように、企業として長期的な採用計画、安定した雇用対策をしっかりと作るということです。長引く不況の中で、企業はやむを得ず、在籍している社員の早期退職、転職の勧奨ということが続けて参りました。このことが、結果的に若い人たちの採用の門戸を狭めることになりました。若い人たちの雇用に大きな影響を及ぼしたということは残念ながら認めざるを得ません。幸い、景気が少し回復して参りましたので、この際改めて、企業が長期的な継続した安定した雇用計画というものを策定する必要があるという風に考えております。今、私たちが非常に危機感を持っておりますが、こういう景気の動向によって若い人たちの採用の動向というのが、増えたり減ったりする、ということは将来の会社の人員構成に大きな歪みを生ずる、同時に特に物作りの企業にとって非常に重要な技術、技能の伝承ということが途切れてしまうのではないかと、ということです。このことを改めて企業経営者は考え、安定した継続した雇用プランということをテーマに掲げたいと思っております。

二つ目の問題は学校と企業の交流を推進する、ということです。近年、大学と企業の間では産学の連携ということがだいぶ進んで参りましたが、その前の段階、中学校、高等学校と企業との交流というのは必ずしも十分ではありませんでした。特に若い人たちに職業観を植え付ける、大事な中学、高校の場面で企業のニーズというのをどういう風に反映させていくかという取り組みが十分ではなかった、と思います。現在、特に経済同友会が力を入れておりますけれども、中学、高校と企業経営者との交流を深めようという取り組みを推進しております。具体的には、企業のトップが中学、高校に出かけて、授業を受け持つ、それを通じて学校の先生との懇談の機会を増やす、ということで昨年は約150名の経営トップが中学、高校に出かけましたけれども今年は200人以上の経営者が学校で実際に授業を受け持つということを目指しています。逆に先生が企業の生活を体験していただく、教師の企業研修の機会というのをこれから増やしていきたいと思っております。

三番目は学生の企業体験の充実です。先ほど太田統括官からお話がありましたように、現在はインターンシップ制度を取り入れる会社がかかなり増えて参りました。大企業では約3分の1がこの制度を取り入れておりますけれども、現在のインターンシップ制度という

のは就職を予定している企業に3ヶ月とか6ヶ月、就職前の体験ということで行われているケースが非常に多いのですが、これからは、企業がもう少しその枠を広げて、単に採用予定の学生だけじゃなくて、幅広い層の学生を受け入れる、現在は大学生が中心ですけれども、高校生、中学生まで範囲を広げていくということが大切だと思います。先ほど太田統括官からお話がありましたように、現在、兵庫県、富山県などで中学生が一週間、就労体験をする、これが大変、職業観を持つのに有効であるという報告がなされています。文部科学省では2005年からこれを全国に展開して、ポイントは中学二年生、14歳の時期が一番大事な時期だそうですが、この時期の就労体験について企業も積極的に応援してきたいと思っています。

四つ目の問題は、企業の中でのOJTの充実です。統計によりますと、企業が計画的OJTに費やす時間は1990年代のはじめから2000年代のはじめ10年間の間に、1990年代のはじめは74%あった企業が、2000年代のはじめには42%に減少した、ということです。同じように全体の教育訓練費というのも、この10年間で1千億減少した、ということです。これは企業がかなり即戦力を採用することによって起こった現象とも言えますが、これからはやはり改めて、企業としてOJT、OFF-JTの強化に取り組む必要があると考えています。最近、我々の間で議論されているのは、日本の物作りの現場で、「現場力」というものが低下しているのではないかと、ということです。いろいろなところで事故が起こったり、災害が起こったりしている。改めてOJTを充実して、この、日本の産業の特徴である、「現場力」の回復強化に努めていきたい、このことが我々の四番目のテーマです。

具体的なテーマばかりのご紹介になりましたけれども、今、経営として取り組みたいというテーマについてご説明いたしました。ありがとうございました。